

# 「アリとキリギリス」 に思う



教育随想

人間環境大学附属臨床心理相談室  
室長 高橋 蔵人 氏

この季節、イソップ童話の「アリとキリギリス」なら、そろそろキリギリスがアリに助けを求める頃だろうか。それとも「夏は歌っていたんだから冬は踊れよ」とやり返され、既に死んでしまっただろうか。

この話にはバリエーションがあって、アリがキリギリスを優しく受け入れて、キリギリスが反省し、その後は夏も働くようになるという話もある。でも、少し考えてみよう。キリギリスが夏も働くようになったら、夏の夜はどうなるか。虫たちの音楽会がなくなると寂しくなるのではないか。



アリたちは小バカにした。そのために当てつけを言われるのだが、なぜ小バカにしたのか。キリギリスが真に音楽を楽しんでいれば、彼の奏でる音楽は、アリたちを励ましたり、疲れを癒したりするものになったのではないか。でも、キリギリスは、アリと自分を比べ、自分が優位であ

ることを見せつけようとしたのである。キリギリスは、そうでもしないと、自分が音楽家であることに喜びを感じられなかったのかもしれない。アリの方も、自分に満足していれば、キリギリスを羨んだり、キリギリスが困ったときにやり返したりはしなかっただろう。このように「アリとキリギリス」では、自分や相手のことを認められないところがあ

(1)



令和2年1月1日

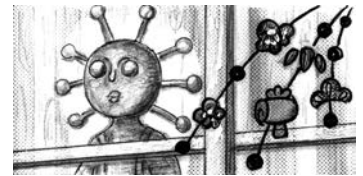
1月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

- 教育随想…………… 1  
人間環境大学附属臨床心理相談室  
室長 高橋 蔵人 氏
- この人に聞く…………… 2  
名古屋芸術大学准教授・アート作家  
松岡 徹 氏
- 羅針盤…………… 2  
書写指導員 市川 岸江
- ふれあい…………… 3  
常磐南小学校  
教諭 渡辺位千代
- 特集…………… 4  
第56回おかざきっ子展  
新しい開催地 引き継がれる思い
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8  
ランチルームでの全校給食  
(平成7年)
- この本を…………… 8

# この人に聞く



## 人とつながるアート

名古屋芸術大学准教授・  
アート作家

松岡 徹 氏

アートの島、佐久島。今や、多くの人が訪れる、県内でも人気の観光スポットである。その佐久島のアートの、立ち上げ当初から携わっているのが松岡徹氏だ。

「佐久島で生活している高齢者の方や子供たちの中には、アートと言っても分からないという人が多くいました。その島の人たちが、楽しんで、おもしろがったりしてくれるように考え、島の人と一緒に作品作りをしています。その方が島の人にとっても楽しいし、作品が島の中で生きていくという感じがします。」  
氏の話からは、地域や人とのつながりを大切にする考え方が伝わる。「制作する作品は、自分だけで作るというよりも、地域と一つになっていき、それが大事なのです。喜んでくれる地域の人たちの顔を見ると、作品作りがうまくいったとうれしくなります。」  
現在も、佐久島をはじめ、幾つかの町おこしの企画や、ワークショップなどの活動に携わる。しかし、作家として活動を始めた頃は、現在と違ったと言う。



「作家になってすぐに、作品作りにもなしさを感じました。身を削って作品を作っても、人に見てもらえないのです。楽しみが多様になっていく中で、純粹にアートの興味をもつ人が少なくなると感じました。自分が必要とされていないのではないかと考えて、何を作ればいいのか分からなくなっていました。」  
そんなとき、スペインの作家と出会い、留学することになる。「ヨーロッパでは、アートは文化として生活に根付いています。自分たちの文化を大切にして、アートをトを応援するという環境があります。例えば、はげた看板に色を塗り直すという簡単なことでもアーティストに頼みます。アートが特別なものではなく、身近な存在としてあるのです。」

この留学の経験が、今の作品作りにもつながっていると語る。これまでの自分を表現するものを作るといふ考えに、社会に必要とされるもの

を作るという考えが加わり、氏のアートに対する考えは広がった。さらに、芸術大学の准教授として、アートの必要性について説く。「アートは、なくても生活できます。けれど、アートのように様々な考え方や感じ方が、豊かな社会や人間関係を作るのです。様々な考え方や感じ方のできるアートが必要なのです。」

その上で、アートについて考えてほしいと、アーティストを目指す人たちが教育に期待する。

「誰もが簡単に作品を発信できる社会だからこそ、多くの人に見られる覚悟と、自分の考えをもっと表現する必要があります。作品を見る人の姿を想像しながら、どんな人が、どんな思いで見るとか、作品を見て何を感じるのかを考えることが大事なのです。」

松岡氏の作品は、店のディスプレイから絵本に至るまで多岐にわたる。そんな氏の作品はユニークで、温かみを感じられる。人とのつながりを大切に、アートによって心豊かで血の通った社会を創造しようとして、氏の作品は語り掛ける。



氏名 まつおか とおる  
生年月日 昭和四十三年十一月十八日  
住 所 岡崎市美合町

## 書写の授業における

### 「対話的な学び」

書写指導員

市川 岸江

書写でいう「対話的な学び」とは、文字を見て感覚的に捉えたことを言語化する、さらに頭で理解したものを筆記具に伝えることである。

小学三年生最後の課題文字「水」は、一年間の書写学習のまとめとなる。A教諭の授業はまず、前時までに習得しきれない知識や技能を子供自身に見つけさせるところから始まった。子供は、教師の朱書きをもとに、本時にできるようになりたてたことを考える。

A教諭は、前時の子供の書から、「はね」と「右払い」の筆使いや「字形」に課題が残るといふ実態を捉え、課題解決のための三つのコーナーを設けた。教師の「自分のために合った実演コーナーに移動して練習しよう」という指示で、子供たちは、自己の課題解決に向かった。

各コーナーでは友達同士の対話から知識を得て技能を高める。「右払





## 認められる喜び



常磐南小学校  
教諭 渡辺位千代

授業終わりのチャイムと同時に、元気に運動場に飛び出す二年生のA男。しかし、休み時間が終わると、「先生、A男君が……」という言葉が、一緒に遊んでいた友達から聞かれる。子供たちが、「順番を守らなかった」「みんなの邪魔をした」と訴えてくるのである。

その度に、A男によく話を聞くのだが、自分のやりたいことをやっただけで、友達に嫌な思いをさせたという意識は薄く、時にふてくされることもあった。

「友達に嫌われちゃうよ。」  
「嫌だ。もうやらないから。」  
こんな会話が繰り返された。

二期期になり、学芸会の練習が始まった。どの子もやる気をみなぎらせ、練習に取り組んでいる。

私は、演技だけでなく、準備から片付けまで子供たちで考えて行動できるようにしてほしいと願っていた。

た。そこで、「先生が準備するのは簡単だよ。でも、いつまでもやってもらうのを待っていていいのかな。自分たちで考えてやってみようよ。」と投げかけた。そうすることでA男にも、友達や周りに目を向けてほしいと願った。

その日から、子供たちは声をかけ合い、準備や片付けを始めた。自分たちの力でやり遂げさせたいと思い、時間はかかっても、じつと見守った。そこには進んで行動するA男の姿もあった。

そんなある日、久々に「先生、A男君が……」の声を聞いた。A男が、置いてある楽器を触っていたという、大道具を運んでいた子供たちからの訴えだった。A男に話を聞くと、目に涙を溜めて、「大道具を運ぶのに邪魔だったから、どかさうとしたのに。」と、ぼそつと言った。

私は、はっとした。A男なりに友達のことを考えて行動していたのだ。にもかかわらず、自分の行動を認めてもらえず、悔しい思いをしていたのだ。今までのわがままとも思えるA男の行動にも、彼なりの理由があったのかもしれない。初めてそのことに気付いた私は、「ごめんね。先生も思い違いをしていたみたい。きちんと言えば、みんなも分かってくれるよ。」

と話したが、A男は首を横に振った。これまでの友達の反応から、受け入れてもらえないと感じているのだから。

う。このままではこれまでと変わらないと思ひ、私はA男と一緒にみんなの前に行った。

「A男君はみんなのために、自分からこれをどかしてくれたんだよ。」

子供たちの間から、「ありがとう」の声が自然と上がった。

「ほら、分かってくれたでしょう。」

A男は顔を上げ、うれしそうにならずいた。

それからは、友達のために生き生きと動くA男の姿が見られるようになった。落ちていた服をハンガーに掛けていた友達を見ると、すぐに駆け寄り手伝うA男。ハンガーが小さくて、何度も服を掛け直すA男のもとに、友達が集まり手を貸す。

「最近いい感じだね」と声をかけると、「そうかなあ」とそっけない返事。しかし、「A男君が」の言葉以上に届く「A男君ありがとう」の声にA男の笑顔が溢れる。その笑顔に、「大切なことを教えてもらったよ、ありがとう。」

私も笑顔を返す。



い」のコーナーでは、まず、前時に右払いのこつをつかんだ子供が、毛筆で書いてみる。その筆使いをじつと見る子供に、A教諭は、「なるほどと思つたら水書用紙で練習して。分らないことは書いた子にお尋ねして」と伝える。子供たちは、互いに声を掛け合いながら練習を進める。「右払いはぐつと止めて……、払う」「そう、そのまま横に払う」。

技能の高い子は、アドバイスを送ることで、習得を目指す子は、言語化された感覚を受け取ることで、それぞれに学びを深める。

「字形を整える」コーナーでは、「水」を四つの画に分解した紙を並べて、バランスを見合う。「二画目と三画目の高さを同じにするとバランスが取れるね」「左払いと右払いの広がりと同じくらい」等の活発な学び合いにより、子供たちは感覚をつかんでいく。それでも感覚をつかめない子にはA教諭がそばに行つてアドバイスする。

まとめ書きの際には、それぞれの子供が今日学んだことや考えたことを自分の頭の中で反すうしながら、それを筆に伝え、一枚の「水」に表す。

書写の授業のいちばんの目的は、「自分の文字を整えたい」という気持ちを育むことだ。対話的な活動を通して、子供たちに友達と学び合う楽しさと、自分の文字が変容する喜びを味わわせることが、教師の務めである。

# 第56回おかざきっ子展 新しい開催地

# 引き継がれる思い



おかざきっ子展は、「子供たちが一生懸命に作った作品を多くの人に見てもらいたい。子供たちに自信と想像力を育みたい。」という先生たちの願いから、昭和三十九年に始まった。本年度で第五十六回を迎え、その間、時代に合わせて会場や作品の内容も変化してきた。

年々増加する来場者への対応や、準備・片付けの効率化の問題などを受け、今回、おかざき世界子ども美術博物館から、岡崎市美術館周辺（中央総合公園内）へと、会場を変更した。それに伴い、作品の展示方法にも新たな工夫が見られた。来場者も昨年から大幅に増え、約七万人となった。

今年のテーマ「COLOR」つながるストーリー!」には、会場を変更しても、おかざきっ子展の精神を受け継いでいくという意味が含まれている。子供たちの造形への熱い思いや、豊かな想像力は、これからも受け継がれていく。

こうした野外作品展は全国的にも珍しく、今も県内外の学校から多くの人が見学に訪れる。児童生徒や保護者だけでなく、市にとっても、大きなイベントとなっている。



## おかざきっ子展の変遷

○第1回～第9回（昭和39年～47年）  
籠田公園

「図工・美術の作品を校内展示で終わらせない」「か所に集めて展示し、子供たちに自信をもたせ、想像の芽を伸ばしたい」という図工・美術教師の熱い思いから始まる。

- 1～5回：パレード実施

○第10回～第14回（昭和48年～52年）  
東公園

市内全児童生徒の作品を展示できるように広い会場へ移転した。

- 10・11回：アドバルーンを設置

○第15回～第21回（昭和53年～59年）  
菅生川河川敷

市の活性化を図るため、康生町や岡崎公園を中心にして「岡崎まつり」が実施された。これを機に、岡崎城の南を流れる菅生川河川敷へ会場を移転した。地の利もあり、市外からの参観が容易となり、観客動員数が飛躍的に増加した。

- 15回：三幼稚園（梅園・広幡・矢作）が参加

- 16回：子展作品が教科書に掲載
- 18回：中日教育賞を受賞
- 20回：岡本太郎氏招聘

○第22回～第55回（昭和60年～平成30年）  
おかざき世界子ども美術博物館

「おかざき世界子ども美術博物館」のオープンに合わせて、会場が移転した。

- 48回：葵三大イベントの一つに選定

○第56回（令和元年）

岡崎市中央総合公園・美術館周辺  
交通渋滞、駐車場不足を解消するためなどの理由により会場を変更した。



### 新しい会場に合わせた展示



丘の起伏をうまく使って、「アートマイル壁画プロジェクト」の作品を展示しました。(六ツ美北部小教諭)



メインストリート沿いに作品が置いてあるので、鑑賞しやすいと思いました。(50代来場者)



パネルが使えない場所での展示方法を工夫しました。ひな壇のように作品を並べることで、全員の商品を一望でき、壮大な展示となりました。(六名小教諭)

### 展示の仕方の工夫・作業の効率化



狭い場所でも、多くの作品を見られるような展示を心がけました。背景の建物ともよく合うように考えました。(南中3年教諭)

道の上にひもを通すことで、スペースを有効活用しました。(翔南中2年教諭)

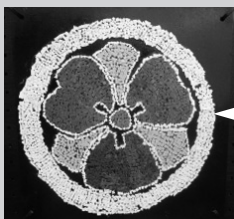


テントの骨組みを利用しました。風で飛ばないように工夫しました。(藤川小4年教諭)



電子会議室を使い、詳細な打ち合わせや確認ができました。また、今年から美術図工主任の会場当番もなくなり、負担が減りました。(図工美術部世話係)

起伏が少なく、準備や片付けは作業がしやすくなりました。また、当日は渋滞もなく、駐車場にも困りませんでした。(小学校教諭)



過去から未来の家族に向けて変わらぬ思いを、わが家の家紋に表しました。(下山小5年児童)

過去から未来へとつながる道を、美しい色の組み合わせで表現しました。(福岡中1年生徒)

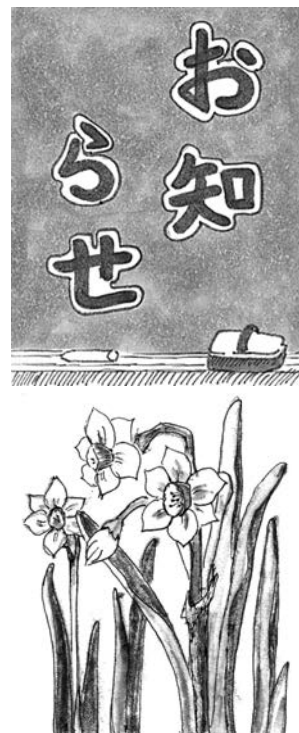


来年はオリンピックなので、五輪カラーで作品を作りました。オリンピックに向けた足跡を残したいと思いました。(小豆坂小4年児童)

岡崎市現職研修委員会  
図工・美術部部长  
太田幹雄先生



おかざきっ子展は、先生方の学びの場でもあります。たくさん作品を見ることができ、様々な技法や展示の仕方を学ぶことができます。今年から会場を変更しました。新しい作品の発想や、展示の仕方を考えるよい機会となります。これからも、たくさんの方に見てもらえるおかざきっ子展であってほしいと思っています。



### ●教育最新情報

#### ◆第53回愛知県研究論文

今年の愛知県研究論文では、実践のすばらしさ、論文としての完成度の高さが評価され、岡崎市から優秀賞二点、佳作五点が選ばれた。

実践を論文としてまとめることは、手だての有効性を明らかにし、自らの授業を客観的に振り返ることになる。授業力向上につながる教師の大切な研修である。

#### ○優秀賞

・男川小学校 原田 康成  
「論理的思考力の基礎を身につける児童の育成  
—プログラミング的思考を取り入れた実践を通して—」

・上地小学校 石田みゆき  
「正しく・深く読む子を育てる国語科の授業  
—物語文『サーカスのライオン』の実践を通して—」

#### ○佳作

・岡崎小学校 栗山 美保  
「作り方や遊び方を工夫しながら思考と自分自身への気付きを深める子の育成  
—二年生活科『おどるへび』のおもちゃ作りの実践を通して—」

・三島小学校 倉田 舞

「仲間とかかわりながら主体的に学びを深め、よりよい社会づくりへの参画をめざす子どもの育成  
—『くらしを支える食料生産（岡崎市の農業）』の実践を通して—」

・岩津小学校 下岡 奈央  
「町探検を通して自分と地域の人の関わりを考え、表現する子供の育成  
—『IWAZU Style』をもとにした二年生活科『いわづの町はっけん』の授業づくり—」

・竜海中学校 武井 翔

「思考・判断しながら、即興で考えや気持ちを表現し、伝え合うことができる生徒の育成  
—中学二年『Unit 2 A Trip to the U.K.』(『NEW HORIZON 2』)の実践を通して—」

・梅園小学校 代表  
現職研修委員会 加納 隆

「自己肯定感を高め、主体的に学び合う子どもの育成  
—平成二十七年からの四年間の教育実践を通して—」

#### ◆令和元年度岡崎市研究論文

#### 募集

#### 【趣旨】

岡崎市立小中学校教職員の日頃の教育実践及び教育研究

の成果を広く募り、教職員の研修と資質向上及び学校教育の健全な発展を図るとともに、その努力を顕彰する。

#### 【部門】

- (1) 個人研究（第一部門）
- (2) 共同研究（第二部門）

#### 【論文の体裁】

- (1) 字数 一八二〇〇字以内（図表、写真等の資料は、本文の範囲内に入れる。）
- (2) 用紙・様式 A 4用紙、40字×35行13枚以内（余白天地左右20ミリ以上）
- (3) 綴じ 縦書きの場合は、縦長右綴じ
- (4) 文字は12ポイント以上（余白への資料添付は禁止）

- (2) 応募論文は、未発表のものであること
- (3) 添付資料は、判読しにくいほど縮小しない。
- (4) 論文の表紙には、教科・領域名、主題名、所属学校名、職・氏名を明記する。
- (5) 論文の表紙には、必要事項を記入したラベルを貼付する。

#### 【提出】

- (1) 提出期日 令和二年一月十日（金）午後五時
- (2) 提出部数 二部（原本と写しで、写しには表紙に「写」と表示する。）

#### 【留意事項】

体裁の違うものは審査の対象外となるので注意する。

- (1) 応募者氏名、領域、研究主題等を、「応募一覧表」により報告する。

#### ◆令和二年度全国学力・学習

#### 状況調査

○調査実施日

令和二年四月十六日（木）

○調査の対象

小学校六年生、中学校三年生



○調査事項

【小学校】 国語、算数

【中学校】 国語、数学

○調査の方式

小学校六年生と、中学校三年生の全校児童生徒を対象とする悉皆調査

○女子個人

五位 額田中 北村 碧葉

◆第50回ジュニアオリンピックク陸上競技会

○女子一五〇〇m

二位(大会新記録)

六ッ美中 小嶋 聖來

◆愛知県小学生陸上選手権大会

○女子八〇mH

三位 豊富小 平塚 玲音

◆第7回全日本小中学生ダンスコンクール全国大会

○小学生部門学校参加の部

銀賞 生平小学校

◆第23回東海小学生バンドフェスティバル

金賞(全国大会出場)

竜美丘小学校

◆第33回東海マーチングコンテスト

○中学校パレードコンテスト

銅賞 南中学校

◆第25回日本管楽合奏コンテスト全国大会

○中学校B部門

優秀賞 北中学校

○創造アイデアロボットコンテスト基礎部門

優勝(東海・北陸地区大会に進出)

福岡中 西村 勇吹

○女子団体

二位 額田中学校

◆第50回愛知県中学生弓道大会

二位 矢作中学校

◆CBCこども音楽コンクール中部日本決勝大会

○小学校合唱部門

優秀賞 梅園小学校

○管楽合奏部門

優秀賞 北中学校

○合奏第一部門

優秀賞 城北中学校

◆第8回日本学校合奏コンクール2019全国大会

○ソロ部門

銀賞 福岡中 福田 貴久

○アンサンブル部門

(金管八重奏)

銅賞 竜海中学校

◆愛知県中学生創造ものづくり教育フェア

○創造アイデアロボットコンテスト活用部門

優勝(東海・北陸地区大会に進出)

福岡中 守屋 勇芽

◆第63回日本学生科学賞愛知県展

○学校・地域・関係諸機関が連携した防災活動

最優秀賞(愛知県知事賞)

常磐東小学校

最優秀賞(名古屋市長賞)

竜海中 山内 幸生

最優秀賞(名古屋科学館賞)

甲山中 榎本 陸人

◆愛知県防火作品展

○ポスター六年の部

愛知県教育委員会賞(準特選)

上地小 町田 都

二位(東海・北陸地区大会に進出)

福岡中 鷲津 晴大

三位(東海・北陸地区大会に進出)

福岡中 田中 優臣

◆第56回東海・北陸地区中学校技術・家庭科作品展

○技術分野

入選 矢作中 松本銀之助

入選 矢作中 黒田 夏鈴

矢作北中 安藤 芭菜

○家庭分野

入選 常磐中 柴田 黎明

優秀 南中 水野まほろ

◆令和元年度技術・家庭科作品展

品展

優秀 南中 水野まほろ

◆第33回愛知県中学生英語弁論大会

助成

○学校・地域・関係諸機関が連携した防災活動

最優秀賞

六ッ美中 パウエル海

奨励賞 新香山中 佐藤 優空

雄弁賞 竜海中 市橋 若奈

◆愛知県防火作品展

○ポスター六年の部

愛知県教育委員会賞(準特選)

上地小 町田 都

◆受信環境クリーン図案コンクール

入選 六ッ美中 山田 康正

優秀賞

北中 小川 蒼真

矢作北中 深津 優輝

矢作北中 深津 柚輝

◆第19回毎日パソコン入力コンクール秋季大会

○第五部和文A中学生

全国大会出場

葵中 伊與田茉奈

美川中 石川 葉

美川中 相澤 旭

美川中 中田 颯吾

美川中 鈴木 陽太

福岡中 山田 響

表彰

◆第1回愛知県中学生新人陸上競技大会

男子砲丸投

二位 福岡中 松田 流輝

◆第38回愛知県中学生バレーボール新人大会

○中学生の部男子バレーボール

優勝 六ッ美中学校

二位 矢作中学校

○中学生の部女子バレーボール

三位 常磐中学校

◆第36回愛知県中学生新人柔道大会

女子団体

二位 矢作中学校

優勝 矢作中学校

◆第50回愛知県中学生弓道大会

女子団体

二位 額田中学校

◆第33回東海マーチングコンテスト

○中学校パレードコンテスト

銅賞 南中学校

◆第25回日本管楽合奏コンテスト全国大会

○中学校B部門

優秀賞 北中学校

二位(東海・北陸地区大会に進出)

福岡中 西村 勇吹

三位(東海・北陸地区大会に進出)

福岡中 西村 勇吹

◆第56回東海・北陸地区中学校技術・家庭科作品展

○技術分野

入選 矢作中 松本銀之助

入選 矢作中 黒田 夏鈴

矢作北中 安藤 芭菜

○家庭分野

入選 常磐中 柴田 黎明

優秀 南中 水野まほろ

◆令和元年度技術・家庭科作品展

品展

優秀 南中 水野まほろ

◆第33回愛知県中学生英語弁論大会

助成

○学校・地域・関係諸機関が連携した防災活動

最優秀賞

六ッ美中 パウエル海

奨励賞 新香山中 佐藤 優空

雄弁賞 竜海中 市橋 若奈

◆愛知県防火作品展

○ポスター六年の部

愛知県教育委員会賞(準特選)

上地小 町田 都

◆受信環境クリーン図案コンクール

入選 六ッ美中 山田 康正

・カ  
ツ  
ト  
細川小 吉田 真由子

# ランチルームでの全校給食 (平成7年)

写真提供：形埜小学校

平成元年に形埜小学校の新校舎が完成した。校舎改築時の「勉強をする場所、給食を食べる場所、遊ぶ場所を分ける」という基本構想に基づき、ランチルームが設けられた。ランチルームでは、全校児童と教職員が一緒に給食を食べる。平成三年からは、各自で食べられる量を考えて配膳を行う、バイキング形式の配膳となった。

東部学校給食センターの改築により、平成二十七年からは自校調理でなくセンター方式になったが、ランチルームに全員が集い、楽しく語らい合いながらの給食は、現在も続いている。

今も昔も「食」を通じたふれあいにより、温かい人間関係が作られている。



放物線を描く縄に、次々と飛び込む子供たち。「はい、はい」という仲間のかけ声が、不安げな子の背中を押す。

自分のリズムで、勇気をもって跳んでいく姿は、今を精一杯生きる姿そのものだ。そんな子供を温かなまなざしで見守りたい。

「とにかく常にアートのことを考えています。」

実物を見て、感じ、咀嚼することが、自らの表現の幅を広げると松岡氏は言う。

私たちも、子供の豊かな感性を育むために、本物に出合わせ、子供の心をゆさぶる授業を目指したい。

## ど ホ ツ

## 睦月



リズムをあわせて 力を合わせて

月明かりの下、「仕事が終わったので、子供の作品を見に来ました」と父親の笑顔が輝く。飾られた作品に表れる子供の思いや成長を楽しみに来たのだろう。

新たな開催地にも、子展に託した精神は引き継がれ、作品を通じた温かな交流が広がる。



\*ファクトフルネス ハンス・ロスリング  
日経BP社 ￥1,800

### 心に残った一文

事実に基づいて世界を見れば、世の中もそれほど悪くないと思えてくる。

「世界中の1歳児で何らかの予防接種を受けられる子はどのくらいいるか。」WHOによると、約88%だという。

この他にも筆者が選んだ13の事実を3択問題にして世界中で調査したところ、学歴や社会的地位が高い人の正解率は、チンパンジーの正解率より低かった。

人は思い込みが強く、ネガティブに考えてしまう。最新の事実に基づいて世界を見れば、世の中が進歩し続けていることがわかる。そして、さらによい社会を創っていかうと動き出すことができる。

\*学びを結果に変えるアウトプット大全 樺沢 紫苑  
サンクチュアリ出版 ￥1,450

\*メモの魔力 前田 裕二  
幻冬舎 ￥1,400

\*直感と論理をつなぐ思考法 佐宗 邦威  
ダイヤモンド社 ￥1,600

矢作西小 深津 伸夫